

平成30年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

平成31年3月1日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
成 す る 主 体 的 ・ 対 話 的 で 深 い 学 び に よ り、 確 か な 学 力 と 健 や か な 体 を 育 成 す る	言語活動の充実	言語に関する能力を高め、思考力、判断力、表現力の育成を効果的に図るために、それぞれの教科の特質に応じた言語活動を意図的に行う。	A	A	・子どもたちの思考を大切し、言語活動が充実するための授業を行った。 ・3年生以上の算数で少人数指導を行い、子どもたちが成就感を味わうことができた。	A	・どの教員も児童に丁寧な声かけができてい る。 ・子どもたちの学力向上をお願いしたい。	・各教科の特質に応じた言語活動の授業を意図的に行う。 ★子どもたちの学力が向上するような授業づくりをめざす。
	学ぶ意欲の向上	子どもの「できる・わかる」を引き出すとともに、問題解決的な学習を実践する。	A					
ち で 関 わ り 合 え る 集 団 づ く り に 取 り 組 む	「自尊心」や「自己肯定感」の育成	「居場所づくり」や「共感の人間関係づくり」を目的とした実践に、計画的に取り組む。その子の努力やよさ、成長を認める声かけを教師が積極的に行う。	A	A	・学校行事や学年行事を通して、子ども一人一人の自己肯定感が高まった。 ・「いなほトーク」や道徳の授業を通して、思いやりや助け合いの心が育ってきた。	A	・自己肯定感を育む講演会を行い、しっかり取り組んでいてとてもよい。 ・当番活動をきちんと行っており、人に役立つことを考えて、行動できている。	・「自己肯定感」を育むための授業づくりや行事を計画する。 ★教師と児童の人間関係の構築がとても重要。今後もコミュニケーションを大切に子どもと接していく。
	思いやりや助け合いの心を育てる道徳教育の推進	児童が自分をとりまく様々な人々の存在に気付き、互いを認め合いながら、人間愛を根底とした具体的な行為の意義を実感できるような道徳授業を実践する。	A					
で 開 か れ た 学 校 運 営 を 推 進 す る	地域ぐるみの教育システムの構築	地域教育ボランティアや保護者、地域住民、地元企業を活用した授業や体験活動を実践する。	A	A	・地域教育ボランティアを積極的に授業の中に活用した ・校外学習や出前講座など、地域の方が積極的に教育活動に参加してくれた。子どもたちも地域への愛着が深まった。	A	・避難訓練や遊具の点検、ブロック塀の点検など、安全管理に配慮されている。 ・地域教育力をますます活用してほしい。	・「安全教育の手引き」を活用し、学校の危機管理を高め、子どもたちが安心して学校生活が送れるように努める。 ★地域教育力をさらに活用していくとともに、新たな人材を発掘していく。
	非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成	「安全教育の手引き」を活用し、緊急時の対応や生活安全についての理解を深め、自らのいのちを守ったり、けがを防止したりするための適切な判断力・行動力を養う。	A					
支 え る 教 師 集 団 を 目 ざ す	教師の授業力向上	「つくし本」「なでしこ本」を活用した積極的な授業研究に努め、すすんで授業公開をする。視点を明確にした研究協議会を積み重ねる。	A	A	・すべての担任が公開授業を行い、その後の研究協議会でお互いに研修を深めている。 ・植田独自の問題解決的な授業スタイルを構築し、実践を行った。 ・人的支援やICT機器を整備し、それを活用した授業実践を行った。	A	・学生ボランティアや図書館ボランティアの活用など、人材活用が上手になされている。 ・教員の業務の多さにびっくりする。 ・地域のかたとのふれ合いの多いこの地区はとても良い。	・「つくし本」「なでしこ本」を活用した授業研究を積極的に行う。 ★現職研修として、研究授業だけでなく、ベテランの教員から実技研修等の機会を設定する。
	学び合い、助け合う人間関係づくりと、多忙化解消にかかる業務の改善	児童の学習面、生活面について、随時情報の共有を図り、学年、学年団を中心に、組織で対応する。 図書館司書、スクールカウンセラー、地教ボ等、人的支援やICT機器を積極的に活用する。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】